

○現状

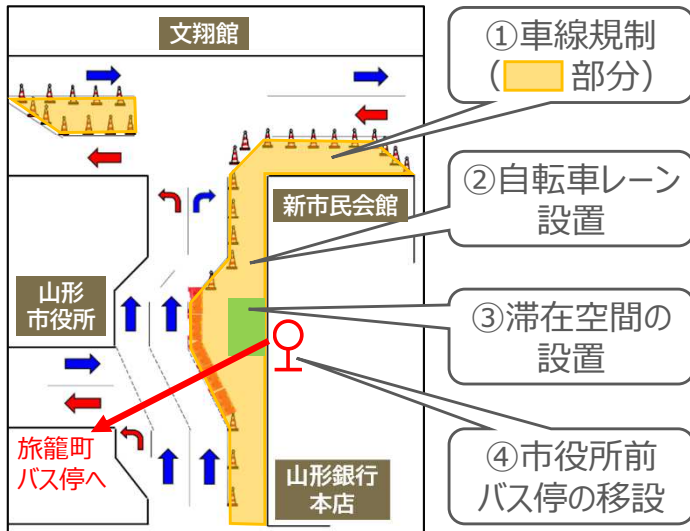
・文翔館前交差点の走行性



・歩行者と自転車の錯綜



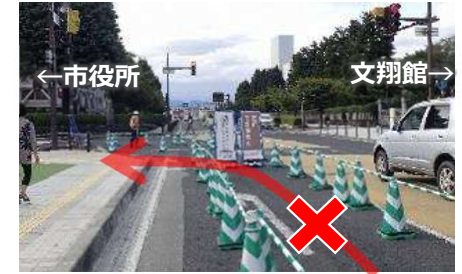
○R6社会実験 (交通規制)



○R6社会実験の検証結果 (実験期間 : R6.10.6~10.13)

【R6】①車線規制

- ・特に交通が集中する夕方の旅行速度をみると、実験期間前半は通常時と比べて低下したものの、**実験期間後半**には、**通常時と同程度**となった。
(23.5km/h→22.4km/h)
⇒ **交通への影響小**



【R6】②自転車レーンの設置

- ・実験期間中、自転車の多くが自転車レーンを走行していた。
- ・歩道を走る自転車が減少したことで、歩道での**歩行者×自転車の錯綜は大幅に減少**した。
(南側歩道31件→1件)
⇒ **歩行者、自転車の安全性の向上**



【R6】③滞在空間の設置

- ・平日の人流*は実験前と同程度だったが、10/13(日)は、**歩行者数が約4割、滞在人口が約1割増加**した。
- ・まちなか賑わいフェスティバルが開催された10/12(土)は、**歩行者数が2倍以上、滞在人口が約6割増加**した。
⇒ **活用の可能性あり**

*携帯電話の位置情報データから推計値



【R6】④バス停移設

- ・移設による大きな混乱はなかった。
⇒ **迂回運行可能**。

○新たな課題

- ・夕方の旅籠町バス停の混雑 (最大約30名がバス待ち)
- ・乗り換え利便性の低下
- ・迂回ルートが渋滞 ⇒ **R7社会実験へ**



○バス迂回運行 (実験期間 : R7.10.20~10.24)



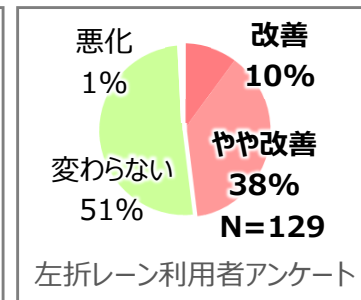
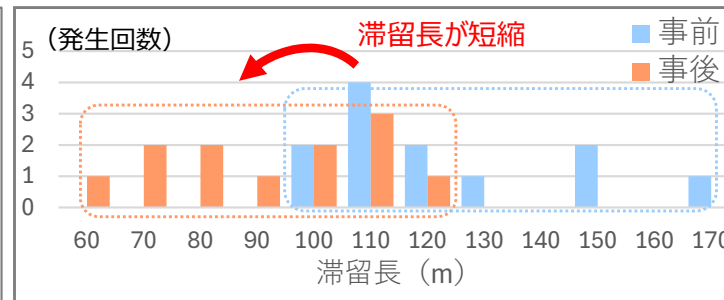
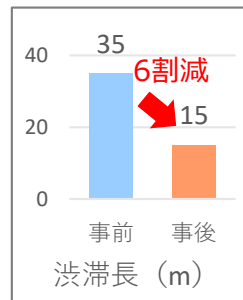
【R7】バスの迂回運行

- 移設による大きな混乱はなし。
- 市役所前バス停から七日町交差点を経由するルートでは遅れが頻発しているが、迂回ルートは遅れが少なく、バス運転手、バス利用者から好評だった。
- バス停を2箇所に分散させることで、バス利用者による歩道の混雑を緩和できた。
⇒ 迂回運行可能。ただし、十分な周知期間が必要。



旅籠町バス停の利用状況

○文翔館西交差点への左折レーン設置 (実験期間 : R7.10.17~継続中)



調査日時 : 事前 10/ 7 (火) 17~19時
事後 10/21 (火) 17~19時

- 左折レーンの設置により、信号1サイクル当たりの裁け台数が増加し、混雑が緩和した。
- 渋滞長 : 35m→15m、滞留長 : 170m→115m (平均値121m→90m)
- WEBアンケートでも約半数が混雑は改善されたと感じている。